Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。
SOLO（BA－AC17型）：
平成10年排出ガス規制適合車

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。
この車は、第１種原動機付自転車です。

★乗車定員
この車の乗車定員は、運転者のみの１人です。

取扱説明書について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。
「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

安全に関する表示について

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意　指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示

お車のために守っていただきたいこと

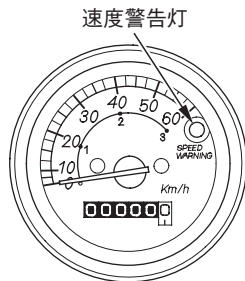
知識　知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

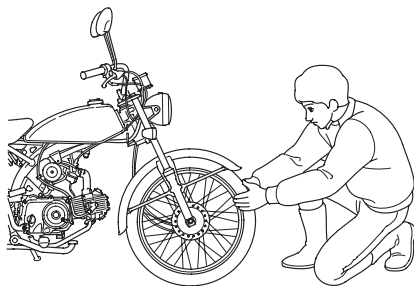
目　次

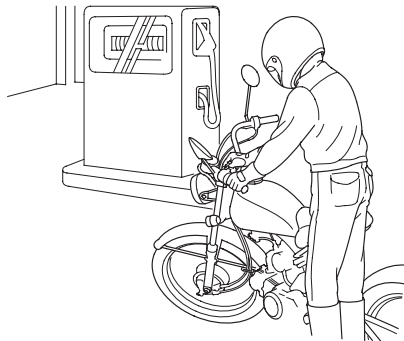
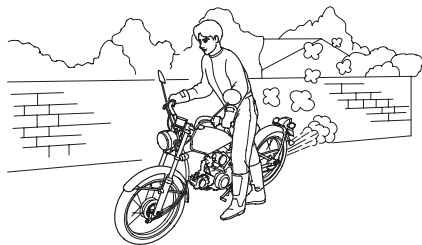
目　　次

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

● スピードメータ部に速度警告灯が装備されています。
車の速度が法定最高速度(30ｋｍ／ｈ)を越えると速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。

運転する前に

● 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、39 ページ参照。

● 定期点検を実施してください。
定期点検は、42 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

服装

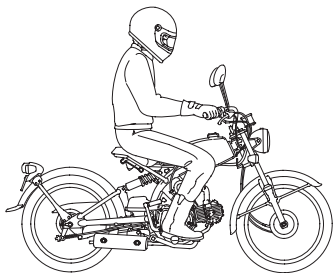
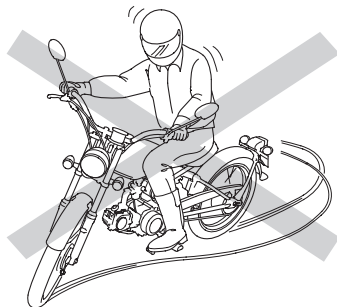
- 運転者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
  ヘルメットは二輪車用でCS、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
  - フェイスシールドまたはゴーグルの使用
  - くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
    －二輪車用ブーツが望ましい
  - 摩擦に強い皮製の手袋の着用
  - 長ズボンと長袖のジャケットの着用
    －明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
    －すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

⚠警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

乗りかた

● 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。

● 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。

荷物

- この車には、荷物を積むための装置はありません。荷物は積まないでください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。

改造

- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
  不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
  このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成10年排出ガス規制適合車です。
  排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。

駐車

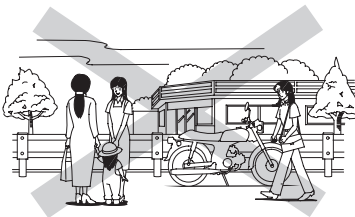
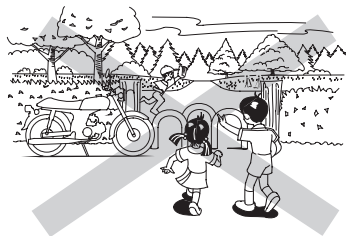
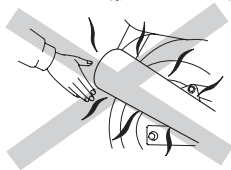
駐車するときは

盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒･動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

サイドスタンドでの駐車について

車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒する恐れがあります。

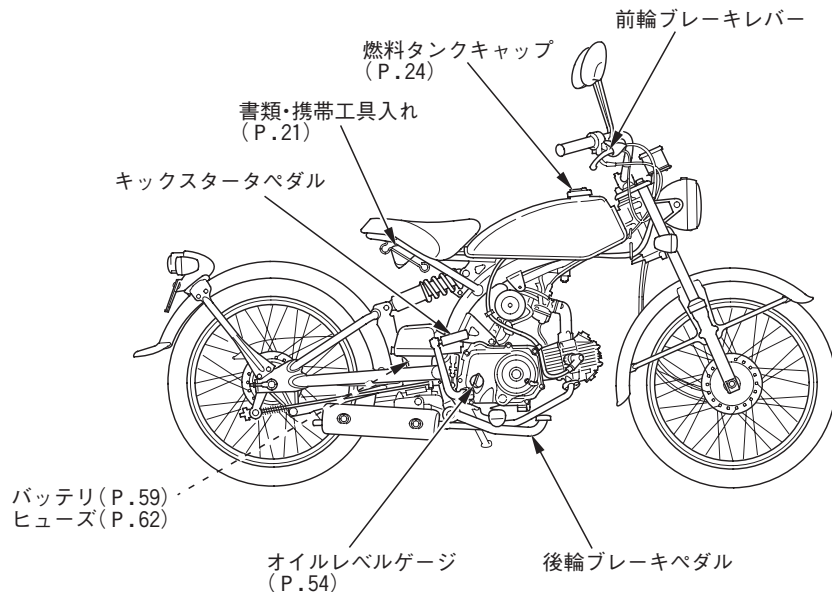
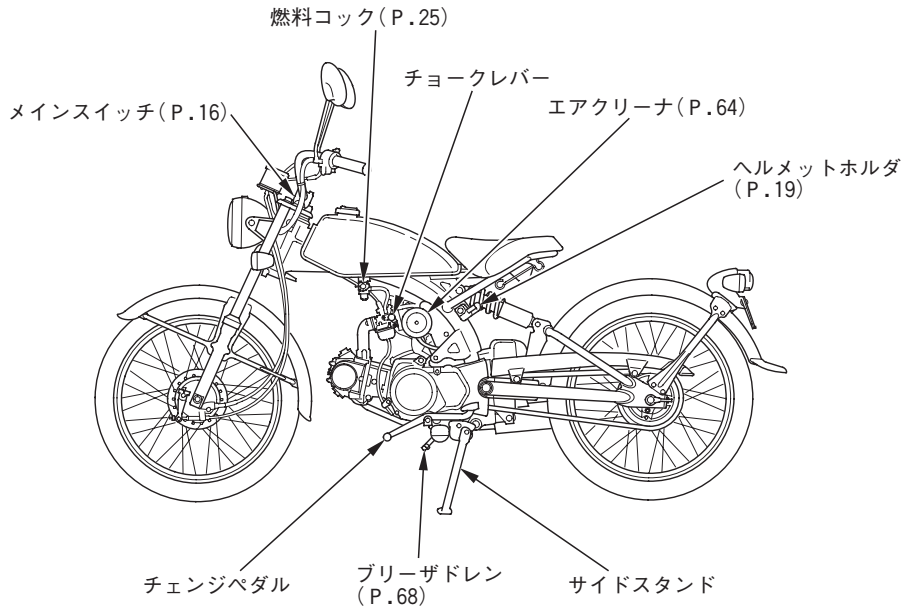
● マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。

● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

⚠注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
● 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

各部の名称

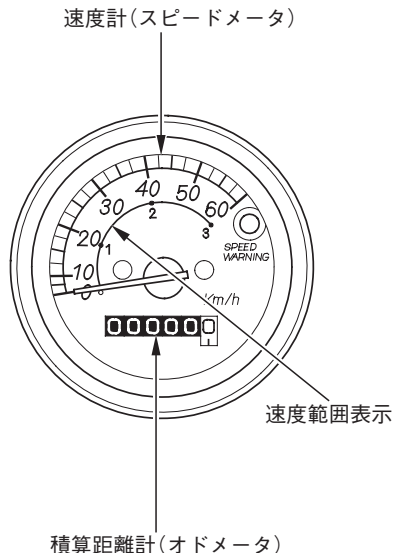
前輪ブレーキレバー
燃料タンクキャップ
（P.24）
書類・携帯工具入れ
（P.21）
キックスタータペダル
バッテリ（P.59）
ヒューズ（P.62）
オイルレベルゲージ
（P.54）
後輪ブレーキペダル

燃料コック（P.25）
チョークレバー
メインスイッチ（P.16）
エアクリーナ（P.64）
ヘルメットホルダ
（P.19）
チェンジペダル
ブリーザドレン
（P.68）
サイドスタンド

計器類

速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。
速度計には速度範囲表示があり、各ギヤでの上限速度を示しています。上限速度を超えるとエンジンの故障や損傷の原因となります。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100 mの単位です。

警告灯・表示灯

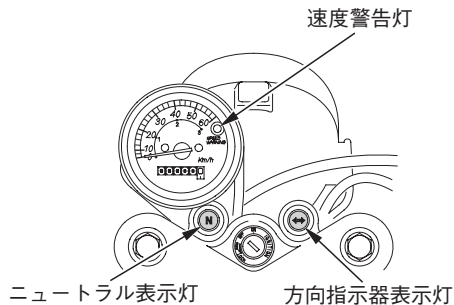
速度警告灯

速度が30ｋｍ／ｈを越えると、点滅します。

方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。

ニュートラル表示灯

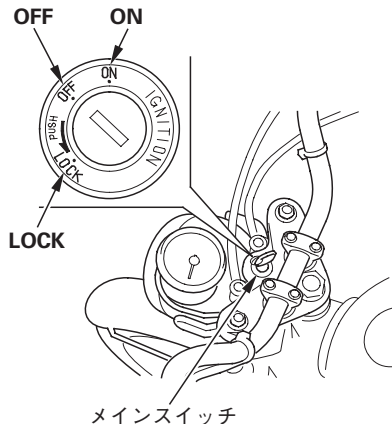
メインスイッチのキーが“ＯＮ”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動･昼夜間走行 • ホーン･方向指示器･制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 • 電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる • 電気回路を全部遮断する	抜ける

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを“ＯＦＦ”や“ＬＯＣＫ”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

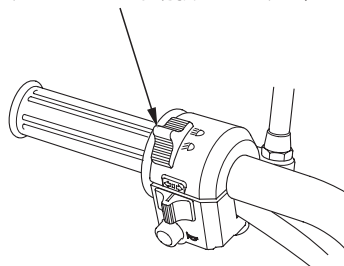
知　識

● 車をはなれるときは､ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

前照灯上下切換えスイッチ（ヘッドライト上下切換えスイッチ）

前照灯(ヘッドライト)上下切換えスイッチで行います。

ΞD ‥‥ 遠くを照らしたい場合に使用します。

ΞD ‥‥ 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適当なときは、下向きにしてください。

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

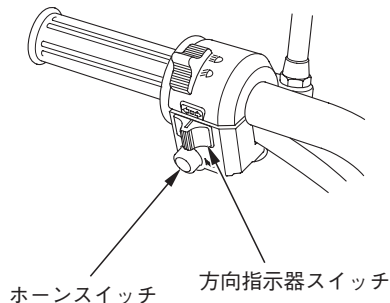
右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》
メインスイッチのキーを"ON"にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。
解除は、方向指示器スイッチを中央に戻します。

⇨……右折
⇦……左折

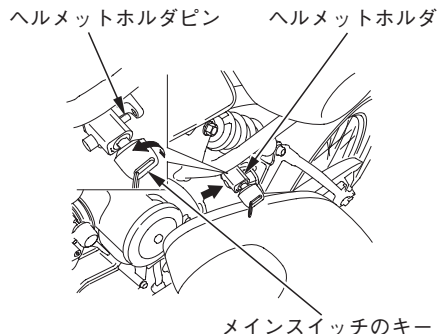
知　識
- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

ホーンスイッチ

メインスイッチが"ON"のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。
走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

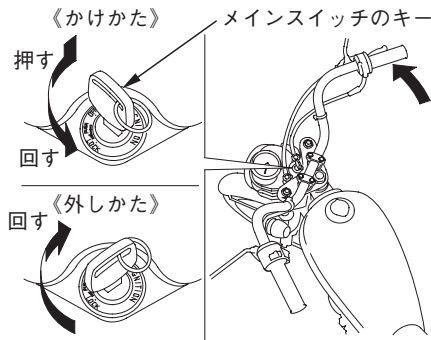
《かけかた》

1．メインスイッチのキーを左に回し、ヘルメットホルダピンのロックを解除します。
2．ヘルメットホルダピンにヘルメットの金具をかけ、ヘルメットホルダピンを押してロックします。

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックやU字ロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》
1．ハンドルを左にいっぱいに切ります。
2．キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。
3．キーを抜きます。

《外しかた》
1．メインスイッチにキーを差し込みます。
2．キーを“OFF”の位置まで回します。

知 識
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。

書類・携帯工具入れ

シート下に書類・携帯工具入れがあります。
取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。
携帯工具は、ここに格納してください。

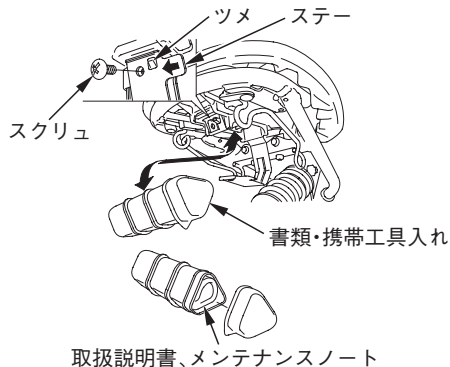
知　識

● 洗車時、書類の格納場所付近に強く水をかけないでください。内部に水が入ることがあります。

《取外し》

1．スクリュを外します。
2．ステーを引いて、ツメを外し、書類・携帯工具入れを外します。

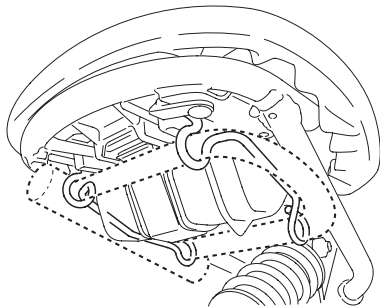
《取付け》

● 取付けは、取外しの逆手順で行います。
● ツメがステーの穴に確実にはまっているか確認してください。

U字ロック格納場所

シートの下にU字ロックを格納することができます。

● U字ロックはオプションです。

知 識

● U字ロック格納場所には､U字ロックの種類や形状､大きさなどにより一部格納できない場合があります。

燃料の補給

《使用燃料》
無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

⚠警告

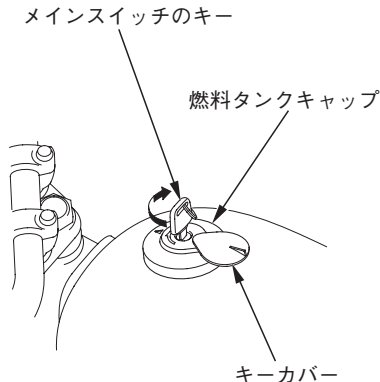
ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、
- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

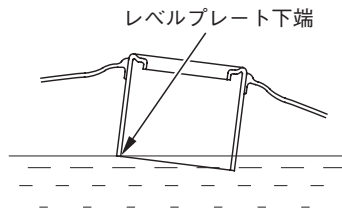
ガソリンを補給するときは、
- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行なってください。

《補給のしかた》

1．キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開けます。

2．ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

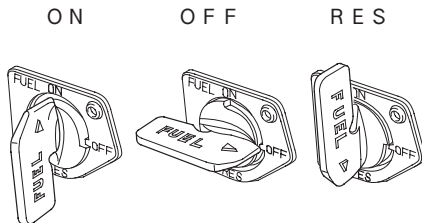
3．燃料タンクキャップを手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。

燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

燃料コック

レバーの矢印が燃料コックの状態を示します。

ＯＮ　…　キャブレータにガソリンが流れます。エンジンを始動するときはこの位置にします。

ＯＦＦ…　キャブレータにガソリンが流れません。乗車するとき以外は、この位置にします。

ＲＥＳ…　予備燃料です。"ＯＮ"で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早めにガソリンを補給してください。
補給後は"ＯＮ"に戻してください。戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。
予備燃料容量：　約 0.9 ℓ

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、27 − 28 ページの「始動手順」に従い行ってください。

アドバイス

- 無用の空ふかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。

知 識

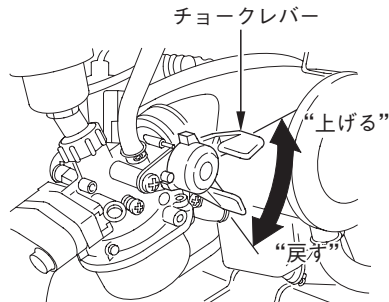
- この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

《始動手順》

●エンジンが冷えているとき

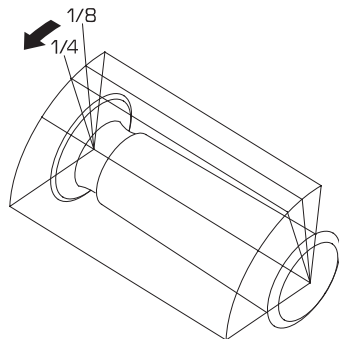
1．燃料コックレバーが“ＯＮ”になっていることを確認します。
2．メインスイッチを“ＯＮ”にします。
3．チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4．チョークレバーをいっぱいに上げます。
5．スロットルグリップを１／８～１／４ほど回し、キックスタータペダルを力強くキックします。
6．エンジンがかかったら、チョークレバーを徐々に戻し、スロットルグリップを少し回したり戻したりしながら、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻します。
7．サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

アドバイス

●チョークレバーを上げたままで長時間暖機運転を行わないでください。
エンジンが損傷する恐れがあります。

● エンジンがかからないときは、77 ページ記載の要領で確認してください。

正しい運転操作

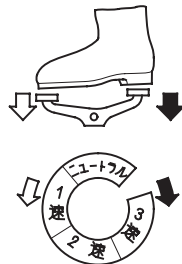
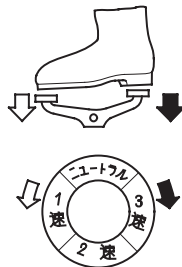
● エンジンが暖まっているとき

1．燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
2．メインスイッチを“ON”にします。
3．チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4．スロットルグリップを1／8～1／4ほど回し、キックスタータペダルを力強くキックします。
5．エンジン回転が不安定な場合は、回転がスムーズになるまでスロットルグリップを少し回してください。
6．サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

● エンジンがかからないときは、77 ページ記載の要領で確認してください。

チェンジのしかた

停止時と走行時では、チェンジ操作が異なります。
停止時は、3段ロータリー式で3速から直接ニュートラルにチェンジできます。
走行時は、前進3段リターン式となります。
3速からは、直接ニュートラルにチェンジできません。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻してから行います。
- チェンジペダルの操作は、つま先かかかとで軽く行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。

走行時

停止時

正しい運転操作

走りかた

- 走行前に、キックスタータペダル、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

アドバイス
- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにHonda販売店で調べましょう。

知　識
- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

	速　度　範　囲
1　速	0 ～ 20 km/h
2　速	13 ～ 40 km/h
3　速	20 km/h以上

《慣らし運転》

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。
この車は乗り始めてから500 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

《シフトダウンのしかた》
追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジン、ミッションがこわれます。右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
3速→2速	30 km/h以下
2速→1速	15 km/h以下

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。

- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンブレーキ》

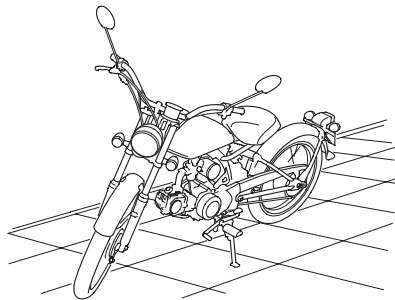
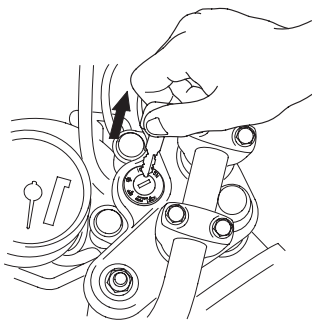
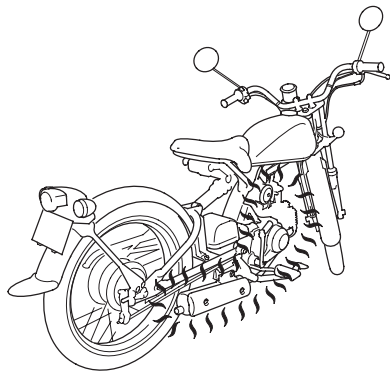
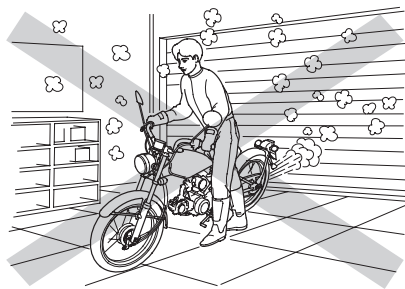
スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは2速、1速とシフトダウンを行ってください。

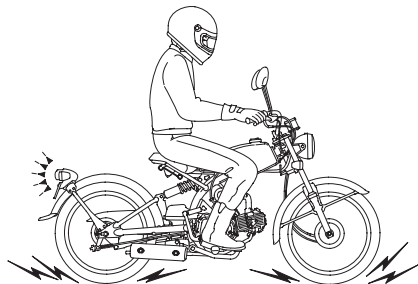
急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。31 ページの表にしたがって行ってください。

長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

メンテナンスを安全に行うために

- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。

- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法に準じて１日１回の日常点検と６か月、12か月毎の定期点検整備を設けてあります。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備,未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

１か月目点検について

新車から１か月目（または、1,000 km時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。
お買いあげのHonda販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。
また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。
純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求めは、Honda販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検は、お車を使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。
下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。44 ページ以後を参照してください。
また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の21ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

●ブレーキ
- レバーの遊び
- ペダルの遊び
- ブレーキのきき具合

●タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷
- 異状な摩耗
- 溝の深さ(※)

●エンジン
- エンジンオイルの量(※)(4サイクル車)
- かかり具合、異音(※)
- 低速、加速の状態(※)

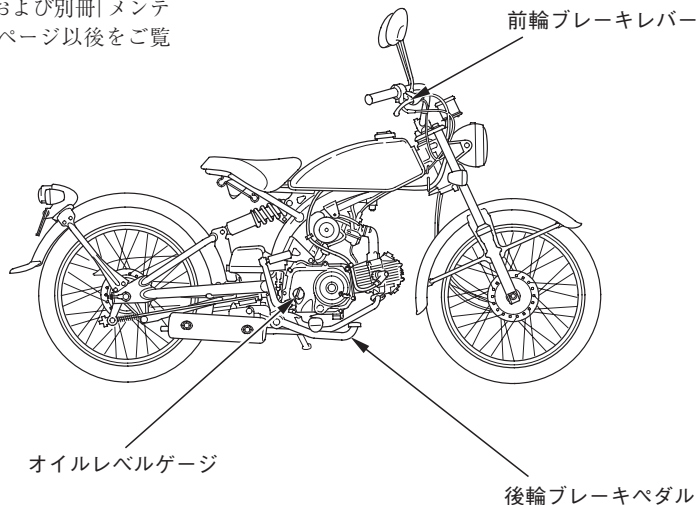
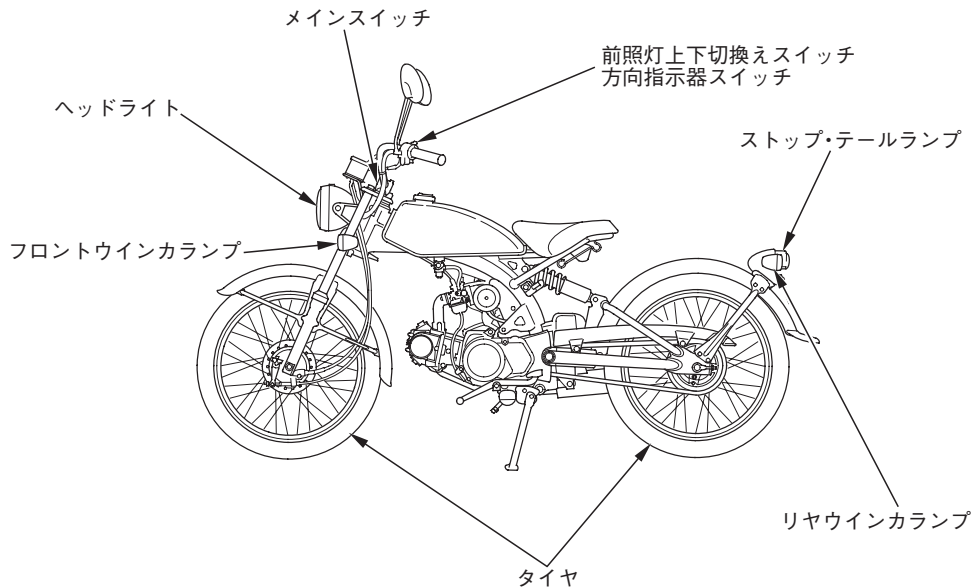
●灯火装置及び方向指示器

●運行において異状が認められた箇所

(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期(長距離走行前や洗車時、給油時等)に行う項目です。

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の21ページ以後をご覧ください。

メインスイッチ
前照灯上下切換えスイッチ
方向指示器スイッチ
ヘッドライト
ストップ・テールランプ
フロントウインカランプ
リヤウインカランプ
タイヤ

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設けられた６か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから１か月目（または、1,000 km時）に行う点検があります。
また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。
点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、80 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

６か月点検項目は、次ページにあります。
点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”（25 ページ）をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 25 ページをご覧ください。

●点火装置	・スパークプラグの状態
●エンジン本体	・排気ガスの状態
	・エアクリーナエレメントの汚れ、詰まり
●潤滑装置	・エンジンオイルの漏れ
●クラッチ	・クラッチの作用
●チェーン及びスプロケット	・チェーンの緩み
●ブレーキペダル及び ブレーキレバー	・遊び ・ブレーキのきき具合
●ブレーキドラム及び ブレーキシュー	・ドラムとライニングのすき間
●ホイール	・タイヤの状態
	・ホイールのボルト、ナットの緩み

Honda指定 6 か月点検整備項目

点検整備の内容は、本書の 68 ページを参照してください。

●ブローバイガス還元装置	・ブリーザドレンの清掃

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

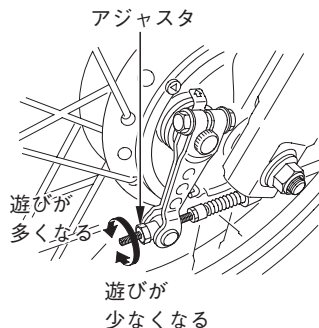
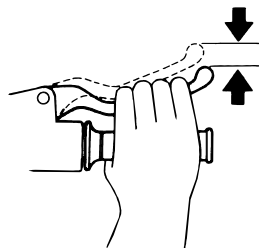
前輪ブレーキ

《ブレーキレバーの遊びの点検》
抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

前輪ブレーキレバーの遊び：10－20 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

調整のしかた
ブレーキレバーのアジャスタにより遊びを調整します。
● 調整は、アジャスタを回して行います。

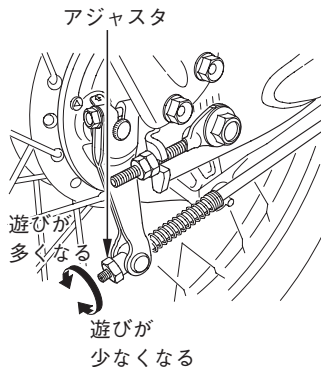
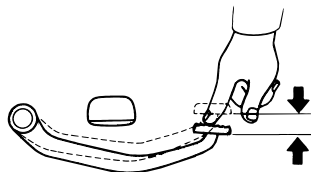
調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

後輪ブレーキ

《ブレーキペダルの遊びの点検》
抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。
　後輪ブレーキペダルの遊び：20－30 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。

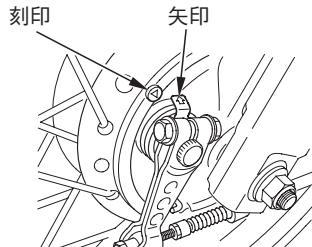
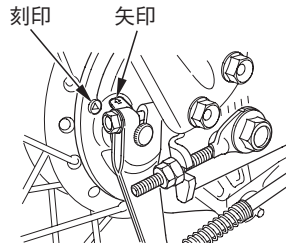
調整のしかた

ブレーキアーム部のアジャスタにより遊びを調整します。
- 調整は、アジャスタを回して行います。

調整後は、ブレーキペダルの遊びを確認してください。

前輪・後輪ブレーキ

《ブレーキシューの摩耗の点検》
前輪はブレーキレバーをいっぱいに引いて、後輪はブレーキペダルをいっぱいに押して、ブレーキアームの矢印とブレーキパネルの刻印が一致しないことを確認します。
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。
ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

前輪

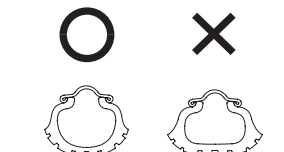
後輪

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。
常に適正な空気圧を保ってください。
また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

⚠警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

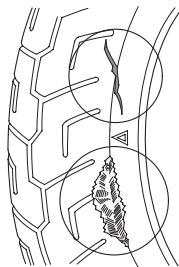
取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

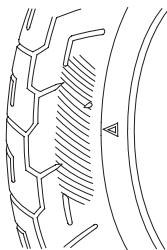
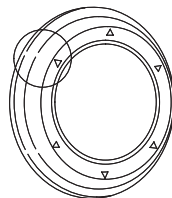
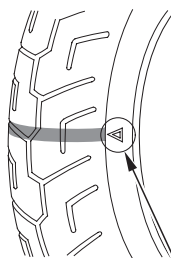
《空気圧の点検》
タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。
タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

タイヤの空気圧

前　輪	175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後　輪	200 kPa (2.00 kgf/cm^2)

《亀裂と損傷の点検》
タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

《異状な摩耗の点検》
タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。

《溝の深さの点検》
溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(スリップサイン)により確認します。
ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

《交換タイヤの選択について》
タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。
指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。
タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。

⚠警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。
そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

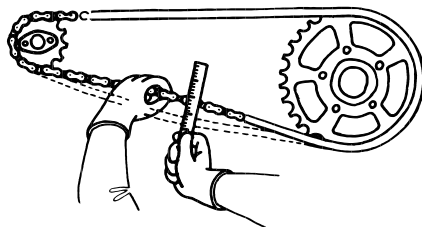
指定タイヤ

前　輪	サイズ	70/100－18M/C 41P
	タイプ	CHENG SHIN C－223 チューブ付き IRC NF2 チューブ付き
後　輪	サイズ	70/100－18M/C 41P
	タイプ	CHENG SHIN C－113 チューブ付き IRC NR2 チューブ付き

ドライブチェーン

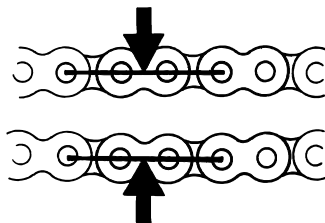
ドライブチェーンのメンテナンスは、エンジンを停止した状態で行ってください。

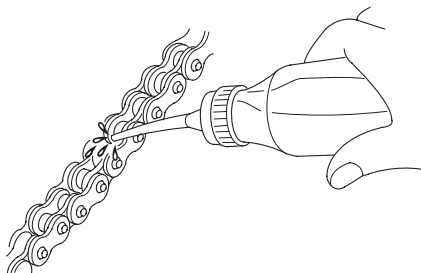
《緩み(たるみ)の点検》
スタンドを立て、前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩み(たるみ)が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

ドライブチェーンの緩み: 20－30 mm

ドライブチェーンの緩み(たるみ)

緩みが規定の範囲を越えている場合は、調整してください。

ドライブチェーンの緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。

また、車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。
調整などの場合はHonda販売店にご相談ください。

《給油と清掃》
車体を前後に動かしてはサイドスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とします。

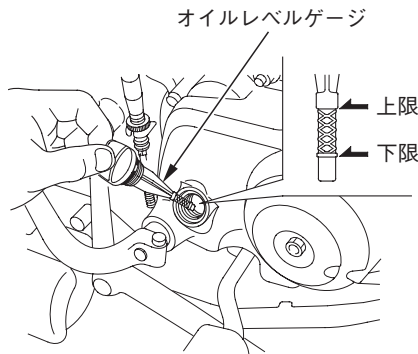
汚れを落とした後、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。
チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないよう注意してください。

指定オイル
“Honda純正チェーンオイル”または
ギヤオイル（＃80～＃90）

エンジンオイル

エンジンの性能を維持するためには、定期的なエンジンオイルの点検･補給が必要です。
汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早目に交換してください。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1．平坦地でエンジンを３～５分間アイドリングさせます。
2．エンジン停止２～３分後にオイルレベルゲージを外します。
3．布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
4．車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
5．オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
エンジンオイルの補給は、次ページ参照。
6．オイルレベルゲージを確実に取付けます。

《オイルの補給》

推奨オイル
Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	JASO T 903規格	SAE規格	API分類
ウルトラG1	MA	10W−30	SJ級

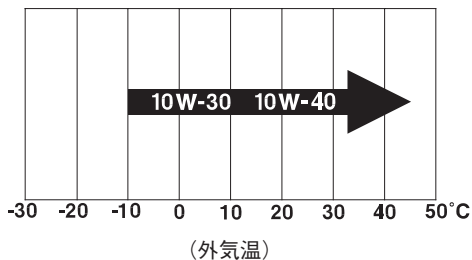
相当品をご使用の場合
オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- JASO T 903 規格(二輪車用オイル規格):MA
- SAE規格:外気温に応じ次ページの表から選択
- API分類:SG、SH、SJ 級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

- クラッチは、エンジンオイルに浸されています。過度に摩擦を低減するエンジンオイルは、クラッチの滑りや始動不良などを発生させます。また、エンジン性能や寿命に悪影響を与える場合があります。
  - 必要以上に摩擦低減剤を含むエンジンオイルは、使用しないでください。
  - 必要以上に摩擦を低減する添加物は、加えないでください。
- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
  オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

外気温と粘度との関係
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

交換時期
初回：1,000 kmまたは１か月
以後：3,000 kmまたは１年ごと

エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

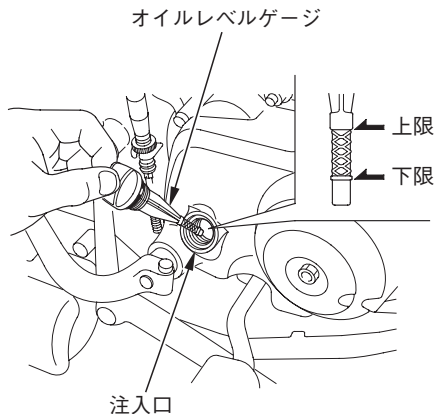
補給のしかた

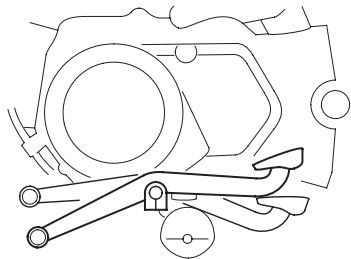
1．平坦地でエンジンを３～５分間アイドリングさせます。
2．エンジン停止２～３分後にオイルレベルゲージを外します。
3．布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4．車体を垂直にして､オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら､注入口よりオイルを上限まで補給します。

補給するときは､オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください｡また､オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください｡

5．オイルレベルゲージを確実に取付けます。

アドバイス

● オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

クラッチ

《クラッチの作用の点検》
キックしたとき、滑らず、踏みごたえがあるかを点検します。
エンジンを始動し、アイドリング状態でチェンジを１速(ロー)に入れたとき、車が動き出さないかを点検します。
スロットルを徐々に開き、エンジン回転を上げたとき、車がスムーズにスタートするかを点検します。

バッテリ

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。

バッテリの取扱い

- バッテリ取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリ液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
  バッテリの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

⚠警告

バッテリには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

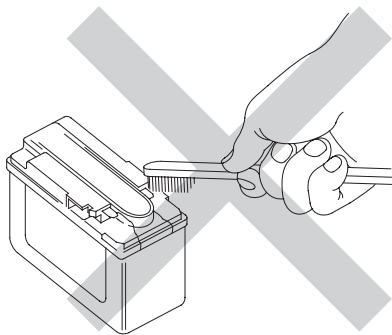
- バッテリの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目に付着したとき
  －コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  －電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  －水、または牛乳を飲んでください。

応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリターミナル部の清掃》
バッテリターミナル部は、コネクタの抜き差しによって自己清浄するようになっています。
ワイヤブラシやサンドペーパ等では磨かないでください。

バッテリを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。

《バッテリの取付け、取外し》

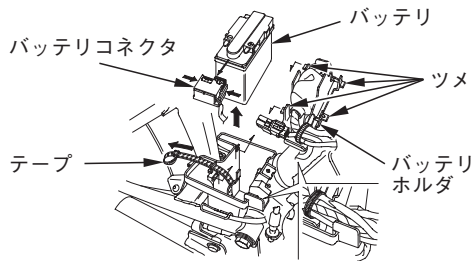
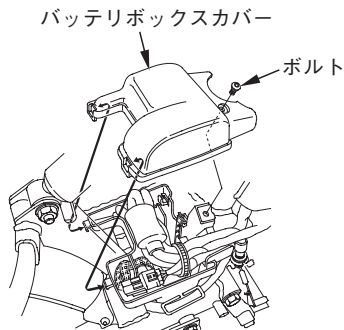
バッテリの取外しは、バッテリホルダのハーネス類を外さずに行えます。

取外し

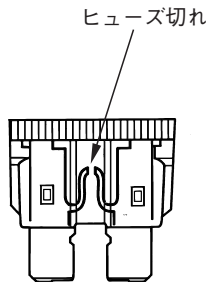
1．ボルトを外して、バッテリボックスカバーを外します。
2．ツメ４か所を外して、バッテリホルダを外します。
3．テープを引いて、バッテリを取出します。
4．バッテリコネクタの両端を押さえながら、バッテリからコネクタを引き外します。

取付け

取外しの逆手順でバッテリを取付けます。

バッテリコネクタの取付けは、“カチッ”と音がするまで確実に行ってください。

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。
ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。
指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

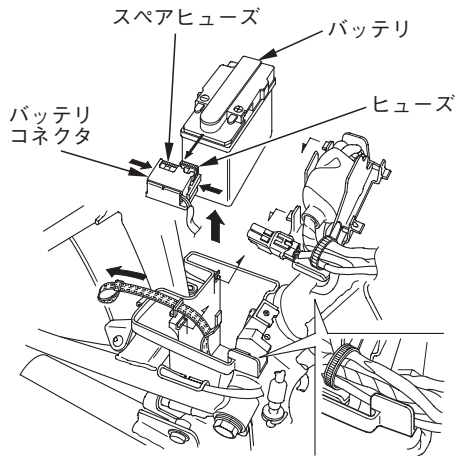
交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

アドバイス
- 電装品類（ライト、計器など）を取付けるときは車種毎に決められている「Hondaアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。

取外し

1．バッテリを取出します。(61 ページ参照)
2．バッテリコネクタの両端を押さえながら、バッテリからコネクタを引き外します。
3．ヒューズを引き抜き点検します。
スペアヒューズは、バッテリコネクタに取付けられています。

取付け

取付けは、取外しの逆手順で行ないます。

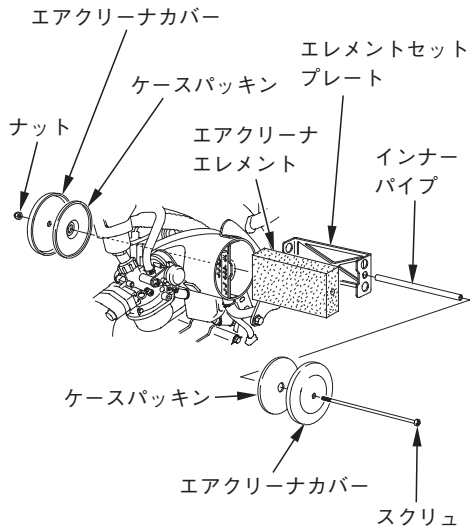
バッテリコネクタの取付けは、“カチッ”と音がするまで確実に行ってください。

エアクリーナ

この車には、ウレタンフォームにオイルを含ませたエアクリーナエレメントが装備されています。
６か月毎に点検してください。

《エアクリーナエレメントの取付け、取外し》

取外し

１．右側エアクリーナカバーのナットを工具で押さえながら、左側エアクリーナカバーのスクリュを外します。
２．エアクリーナカバー、ケースパッキン、インナーパイプを外し、エレメントセットプレートとエアクリーナエレメントを取外します。
３．エレメントセットプレートからエアクリーナエレメントを外します。

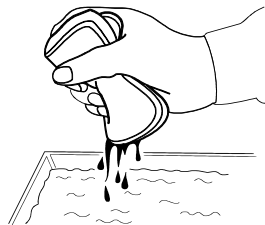
取付け

- 取付けは、取外しの逆手順で行います。

アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

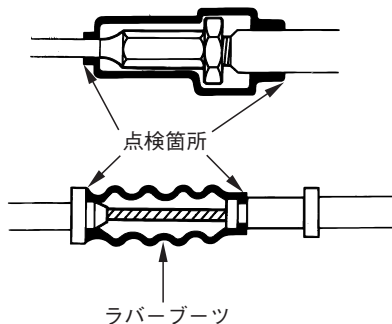
《エアクリーナエレメントの点検》
エアクリーナエレメントを取外し、汚れ、詰まり、損傷などがないかを目視などにより確認します。
- 汚れがひどい、詰まりがある場合は、清掃してください。
- 損傷がある場合は、交換してください。

《エアクリーナエレメントの清掃》
ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。

1．エアクリーナエレメントを取外します。
2．エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、絞ってから乾いた布でつつみ、さらに絞ります。
3．きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。
オイル：ギヤオイル（＃80～＃90）

ケーブル類のラバーブーツ

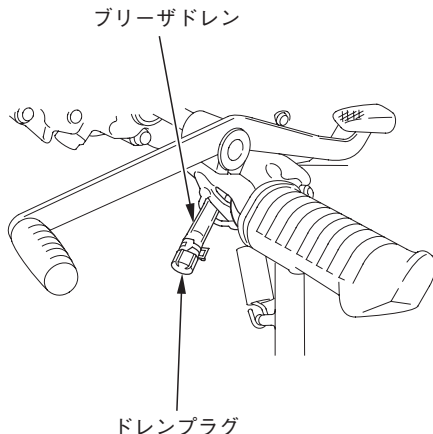
《ラバーブーツの点検》

ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。

ブリーザドレン

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《ブリーザドレンの清掃》
（Honda指定6か月点検整備項目）

1．ブリーザドレンの下に受け皿等を用意します。
2．ドレンプラグを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
3．ドレンプラグを確実に取付けます。

車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは､品質や性能を維持するために大切な作業です。
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

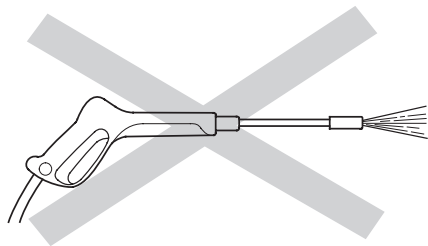
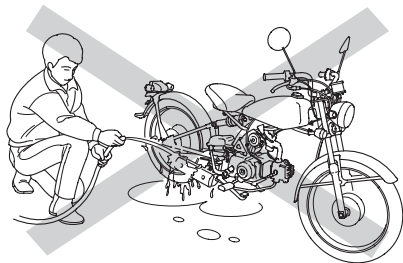
また､海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は､車体のサビを促進します。
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

《洗車のしかた》

1．水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。
汚れがひどいときは､薄めた中性洗剤を使用し､十分な水で洗剤を洗い流してください。

2．柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後､ドライブチェーン､ブレーキレバー､スタンドの取付け部へ注油し､その後､車体の腐食を防ぐため､ワックスがけを行なってください。

● 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。

● 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。

● 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。

つや消し塗装の取扱い

《つや消し塗装車》

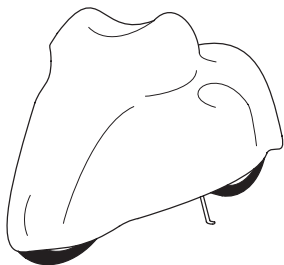
つや消し塗装車は、一般的な塗装と取扱いが異なります。

つや消し塗装を維持するため必ず次のことをお守りください。

- 汚れを落す場合は、中性洗剤を使ってやわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。洗浄後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。
- 塗装面にコンパウンドやコンパウンド入りワックスを使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ご不明な点がありましたら、Honda販売店にご相談ください。

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し､屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください｡

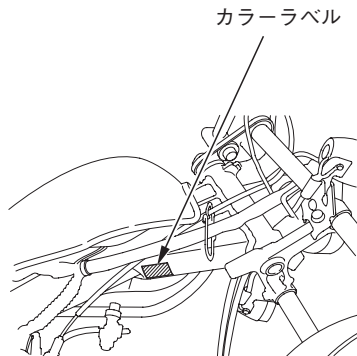
知 識
- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください｡

長期間､ご使用にならない場合は次の項目をお守りください｡

- 大事なお車をサビから守るために､保管する前にワックスがけを行なってください｡また､雨上がりには一度ボディカバーを外し､車体を乾燥させてください｡
- バッテリは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し､完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください｡もし車に積んだまま保存する場合は､バッテリコネクタを外してください｡

地球環境の保護について

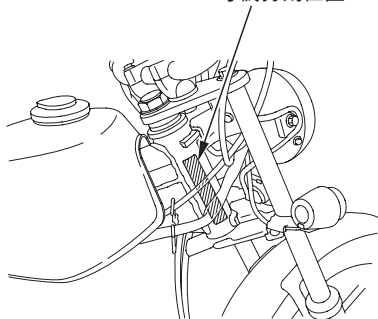
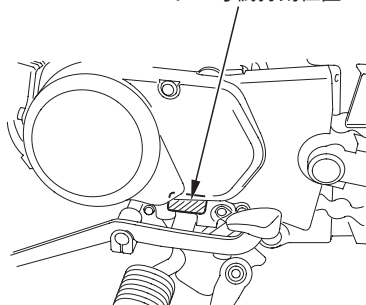
地球の環境を守るため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。
また、将来お車を廃車される場合も同様です。
これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。
カラーラベルは、フレームパイプに貼ってあります。

マフラの純正マークについて

マフラの後部には、Honda純正部品を表す
“ＨＯＮＤＡ”マークが刻印されています。

フレーム号機

フレーム号機は､部品を注文するときや､車の登録に関する手続に必要です。
また､フレーム号機は､お車が盗難にあった場合に､車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し､車と別に保管することをおすすめします。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

項目		諸元
型式		BA－AC17
長さ		1,995 mm
幅		710 mm
高さ		980 mm
軸距		1,285 mm
原動機種類／総排気量		ガソリン・4サイクル／0.049 ℓ
車両重量		77 kg
乗車定員		1人
タイヤサイズ	前輪	70/100－18M/C 41P
	後輪	70/100－18M/C 41P
最低地上高		150 mm
燃料消費率 ※		95.0 km/ℓ（車速30 km/h 定地走行テスト値）
最小回転半径		2.0m
圧縮比		10.0
最高出力		2.6 kW(3.5 PS) / 7,500 rpm
最大トルク		3.8 N•m(0.39 kg•m) / 6,000 rpm
燃料タンク量		4.1 ℓ

※ 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

項目		仕様
点　火　型　式		ＣＤＩ式・マグネット点火
点　火　時　期		BTDC27° / 1,800 rpm
アイドリング回転数		1,800 rpm
点火プラグ	ＮＧＫ	CR5HSA CR6HSA CR7HSA
	ＤＥＮＳＯ	U16FSR－U U20FSR－U U22FSR－U
蓄電池（バッテリ）		12V－2.3Ah
機関から変速機までの減速比		4.058
クラッチ形式		湿式多板コイル・スプリング
変速機形式		常時噛合式
変速機操作方式		左足動式
変速比	１速	3.272
	２速	1.764
	３速	1.190
第一減速比		3.230

サービスデータ

項目		値
前輪ブレーキレバーの遊び		10－20 mm
後輪ブレーキペダルの遊び		20－30 mm
タイヤ空気圧	前　　輪	175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
	後　　輪	200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
エンジンオイルの量	全　容　量	0.8 ℓ
	オイル交換時	0.6 ℓ
ヒューズ		10A
点火プラグの点火すきま		0.6－0.7 mm
エアクリーナエレメント	形　　式	ウレタンフォーム式
ドライブチェーンのたるみ		20－30 mm
電球（バルブ）	ヘッドライト	12V 30/30W
	ストップ･テールランプ	12V 10/5W
	ウインカランプ	12V 10W

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-086819（オーハローバイク）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00

〒351－0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日
④販売店名